

4 大麦

(1) 国際的な大麦需給の概要

○2008/09年度の大麦需給（予測）のポイント

大麦の供給面では、これまでの天候が順調に推移したことなどから、世界的な生産量の増加が見込まれている。

需要面では、生産の拡大ととうもろこし価格の高騰の影響を受け、飼料用需要の回復が見られ、消費量の増加も見込まれている。

期末在庫量については、4年ぶりに生産量が消費量を上回ることから在庫の積み増しが行われると見込まれる。

【生産量】

生産量は、価格高騰による世界的な増産意欲やこれまでの天候が比較的良好に推移したことなどから、昨年の干ばつや天候不順による単収低下も回復し、EU、ロシア等の主要生産国で増産が見込まれ、世界全体では前年度より13.5百万トン増加（10.2%）し、146.8百万トンとなる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で4.2百万トン上方修正されており、国別にはEU、ウクライナ等が良好な天候等を反映して上方修正されているが、トルコでは下方修正されている。

【消費量】

消費量は、飼料用需要を中心にEU、ロシア、カナダ等主要消費国で増加が見込まれ、世界全体では前年度より4.1百万トン増加（3.0%）し、141.9百万トンとなる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で0.5百万トン上方修正されており、国別にはウクライナ、EU、カナダ等が上方修正された。

【貿易量】

世界全体の貿易量は、3.5百万トン増加（23.3%）し、18.8百万トンとなる見込みである。

国別には、輸出国では生産の回復が見込まれているウクライナ、オーストラリア、ロシアで輸出量の増加が見込まれているが、EUはロシア、ウクライナと競合することから輸出量の減少が見込まれている。一方、輸入国では、サウジアラビア、イラン等で輸入量が増加すると見込まれている。

なお、前月の予測からの改訂は、世界で0.4百万トン上方修正されている。国別にはウクライナ、カナダ、ロシア等の輸出量、サウジアラビアの輸入量が上方修正されており、EUの輸出量が下方修正されている。

【期末在庫量】

期末在庫量は、生産量の増加等を反映し、4年ぶりに生産量が消費量を上回ることから、EU、米国、オーストラリア等で積み増しされ、世界全体では前年度より4.9百万トン増加（30.5%）し、21.0百万トンとなる見込みであり、期末在庫率は14.8%（3.1ポイント増）となる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で3.5百万トン上方修正されており、国別にはEU、ウクライナ等が上方修正され、オーストラリア、カナダが下方修正された。

表－1 世界の大麦需給

(単位:百万トン)

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	137.4	133.3	146.8	4.2	10.2
EU-27	56.2	57.8	62.7	1.9	8.5
ロシア	18.1	15.7	18.0	0.5	15.0
カナダ	9.6	11.0	10.5	0.5	▲ 4.5
ウクライナ	11.4	6.0	12.0	1.5	100.0
オーストラリア	4.3	5.9	8.5	-	43.6
トルコ	7.5	6.0	6.0	▲ 0.2	0.0
米国	3.9	4.6	4.7	0.0	2.9
消費量	145.2	137.8	141.9	0.5	3.0
うち飼料用	100.9	93.3	96.4	0.3	3.2
EU-27	55.9	54.4	55.5	0.2	2.0
ロシア	16.4	15.3	15.9	-	3.9
カナダ	10.2	8.4	9.0	0.2	7.1
トルコ	7.3	6.7	6.5	▲ 0.2	▲ 3.0
サウジアラビア	6.8	6.8	6.9	0.2	1.5
ウクライナ	6.5	5.6	6.3	0.3	11.9
米国	4.6	4.4	4.6	0.0	3.6
貿易量	15.3	15.3	18.8	0.4	23.3
(輸出)					
EU-27	3.5	4.0	3.5	▲ 1.0	▲ 12.5
ウクライナ	5.1	0.7	5.0	0.5	614.3
オーストラリア	1.9	3.0	4.0	-	33.3
カナダ	1.2	3.1	1.6	0.5	▲ 48.4
ロシア	1.5	1.1	2.1	0.5	100.0
サウジアラビア	0.6	1.2	0.8	-	▲ 33.3
アルゼンチン	0.5	0.8	1.2	-	43.8
(輸入)					
サウジアラビア	6.7	6.3	7.0	0.2	11.1
日本	1.4	1.4	1.4	-	3.7
中国	1.1	1.2	1.3	-	8.3
イラン	0.4	0.5	1.2	-	140.0
モロッコ	0.4	0.7	1.0	-	42.9
シリア	0.3	0.3	0.9	-	183.3
チュニジア	0.7	0.5	0.7	-	40.0
期末在庫量	20.6	16.1	21.0	3.5	30.5
EU-27	5.6	5.3	9.1	2.7	71.3
米国	1.5	1.5	1.7	0.1	11.7
オーストラリア	1.3	0.6	1.2	▲ 0.5	107.3
サウジアラビア	2.4	1.9	2.0	0.5	4.7
ロシア	1.2	0.7	0.9	-	27.5
カナダ	1.5	1.0	1.0	▲ 0.1	0.0
ウクライナ	1.0	0.7	1.4	0.7	106.6
期末在庫率	14.2%	11.7%	14.8%	2.4	3.1

資料：USDA 「Grain: World Markets and Trade」、
「PS&D」

(2) 大麦の主要生産・輸出国等の需給状況

ア オーストラリア

【需給状況】

オーストラリアの生産量は、2年連続の干ばつによる減産から回復し、単収が増大した結果、生産量は前年度より2.6百万トン増加（43.6%）し、8.5百万トンとなる見込みである。

消費量は、飼料用大麦の増加の影響を受け、0.2百万トン増加（6.8%）し、3.9百万トンとなる見込みである。

輸出量は、1.0百万トン増加（33.3%）し、4.0百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫率は14.7%（6.3ポイント増）となる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂としては、2007/08年度の輸出量の上方修正による2008/09年度の期首在庫の下方修正から期末在庫量が0.5百万トン下方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

6月末から7月にかけて降水量が減少、7月の最終週には降雨があったものの土壌水分が生育に十分な量とはなっていない状況の中で、現状の予測は、今後の十分な降雨があることを前提として維持されており、引き続き天候に注視が必要である。

イ カナダ

【需給状況】

カナダの生産量は、単収が前年度より上昇すると見込まれるものの、収穫面積が小麦と大豆の作付拡大の影響を受けて減少することから、前年度より0.5百万トン減少（▲4.5%）し、10.5百万トンとなると見込まれている。

消費量は、飼料用大麦の消費が0.5百万トン増加（7.0%）することなどを受け、消費量全体は前年度より0.6百万トン増加（7.1%）し、9.0百万トンとなる見込みである。

一方、飼料用大麦の輸出が大幅に減少することにより、輸出量は前年度より1.5百万トン減少（▲48.4%）すると見込まれている。

この結果、期末在庫率は9.8%（0.8ポイント増）となる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂として、単収が上方修正されたことなどから生産量が0.5百万トン上方修正され、さらに、消費量が0.2百万トン、輸出量が0.5百万トン上方修正されたため、消費量期末在庫量は0.1百万トン下方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

大麦の収穫がまもなく始まる。カナダ南西部の穀物産地の大部分では、6月の気温は平年よりも低く、雨が少なかったため作物の生育が心配されたが、その後好天に恵まれており順調に生育している。収穫の進捗も天候に左右されることから、引き続き主要産地の天候に注視が必要である。

我が国の輸入先国シェア 1位（2007年数量ベース41.0%）
世界の生産量シェア 5位（2008/09年度 5.8%）
輸出量シェア 3位（2008/09年度21.2%）

表-2 オーストラリアの大麦需給（市場年度：11月～翌年10月）

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(ABARE)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	4.3	5.9	8.5 (7.9)	-	43.6
消費量	3.8	3.7	3.9 (2.9)	-	6.8
うち飼料用	2.9	2.7	2.9 (2.6)	-	7.4
輸出量	1.9	3.0	4.0 (5.3)	-	33.3
輸入量	0.0	0.0	0.0 (…)	-	…
期末在庫量	1.3	0.6	1.2 (…)	▲ 0.5	107.3
期末在庫率	22.8%	8.4%	14.7% (…)	▲ 6.3	6.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	4.18	4.41	4.50 (4.48)	-	2.0
単収(t/ha)	1.02	1.34	1.89 (1.77)	-	41.0

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」、
ABARE「AUSTRALIAN CROP REPORT (June 2008)」

我が国の輸入先国シェア 3位（2007年数量ベース14.5%）
世界の生産量シェア 4位（2008/09年度 7.2%）
輸出量シェア 5位（2008/09年度 8.5%）

表-3 カナダの大麦需給（市場年度：8月～翌年7月）

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(AAFC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	9.6	11.0	10.5 (10.5)	0.5	▲ 4.5
消費量	10.2	8.4	9.0 (8.2)	0.2	7.1
うち飼料用	8.9	7.1	7.6 (7.7)	0.1	7.0
輸出量	1.2	3.1	1.6 (2.3)	0.5	▲ 48.4
輸入量	0.0	0.1	0.1 (0.0)	-	100.0
期末在庫量	1.5	1.0	1.0 (1.1)	▲ 0.1	0.0
期末在庫率	13.0%	9.0%	9.8% (10.4%)	▲ 1.6	0.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)	3.22	4.00	3.30 (3.3)	-	▲ 17.5
単収(t/ha)	2.97	2.75	3.18 (3.2)	0.15	15.6

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」、
AAFC「Grains and Oilseeds Outlook (August 1, 2008)」

ウ 米国

【需給状況】

米国の生産量は、前年度より0.1百万トン増加（2.9%）増加し、4.7百万トンとなる見込みである。

消費量は前年度より0.2百万トン増加（3.6%）し、4.6百万トンとなる見込みである。飼料用の消費は0.4百万トン増加（45.8%）している。

輸出量は、前年度より0.4百万トン減少（▲39.7%）し、0.5百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫率は前年度より4.5ポイント上昇し、32.4%となる見込みである。

前月の予測からの改訂としては、飼料用消費が0.3百万トン下方修正され、輸入量と期末在庫量がそれぞれ0.1百万トン上方修正されている。

【生育進捗状況及び作柄】

米国の大麦の主要5州は収穫期を迎えているが、収穫率は66%であり、過去5年の平均に比べ9ポイント（前年に比べ21ポイント）低くなっている。生育期に気温が低かったため成熟が遅れており、その結果収穫の進捗に影響が出ている。

また、作柄については、優良が8%と前年度の同時期や最終に比べ低くなっているものの、優良～普通までの合計では86%と前年度の最終の83%を上回っている。

〔我が国の輸入先国シェア2位（2007年数量ベース36.2%）
世界の生産量シェア 7位（2008/09年度 3.2%）〕

表－4 米国の大麦需給（市場年度：6月～翌年7月）

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	3.9	4.6	4.7	0.0	2.9
消費量	4.6	4.4	4.6	0.0	3.6
うち飼料用	1.1	0.7	1.1	▲ 0.3	45.8
輸 出 量	0.4	0.9	0.5	-	▲ 39.7
輸 入 量	0.3	0.7	0.5	0.1	▲ 20.9
期末在庫量	1.5	1.5	1.7	0.1	11.7
期末在庫率	29.8%	27.9%	32.4%	2.2	4.5
(参考)					
収穫面積(百万ha)	1.19	1.42	1.47	-	3.5
単収(t/ha)	3.29	3.25	3.22	-	▲ 0.9

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」

○ 米国大麦の生育進捗状況及び作柄（8月24日現在）

〔生育進捗状況（主要5州）〕

収穫率 66%（平年差：▲ 9 p、前年差：▲21 p）

〔作柄（主要5州）〕

		単位：%				
		優良	良	普通	不良	極不良
大麦	2008/09	8	44	34	10	4
	前年度同時期
	前年度最終	9	53	21	9	8

注：優良-Excellent、良-Good、普通-Fair、不良-Poor、極不良-Very Poor

資料：USDA 「Crop Progress」

8月24日現在のデータに春小麦の前年同時期の情報は含まれていない。

注：生育進捗状況の（ ）内は同時期の平年値（過去5年）及び前年同時期との比較である。

エ EU-27

【需給状況】

EUの生産量は、収穫面積の増大および単収の増加を受け、前年度より4.9百万トン増加（8.5%）し、62.7百万トンとなる見込みである。

消費量は、飼料用の消費増大により、前年度より1.1百万トン増加（2.0%）し、55.5百万トンとなる見込みである。

輸出量は、ロシア、ウクライナとの競合が激しく、前年度より0.5百万トン減少（▲12.5%）し、3.5百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、前年度より3.8百万トン増加（71.3%）し、期末在庫率は15.5%（6.3ポイント増）となる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、収穫面積と単収が上方修正されたことを受け、生産量が1.9百万トン上方修正されている。また、消費量が0.2百万トン上方修正されているが、輸出量が1.0百万トン下方修正されているため、期末在庫量は2.7百万トン上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

収穫期を迎え、生育期に良好な天候に恵まれたフランスでは非常に高い単収が報告されている。

オ ウクライナ

【需給状況】

ウクライナの実産量は、収穫面積は横ばいであるものの良好な天候により単収が干ばつ被害のあった前年度から大幅に改善することをうけ、前年度より6.0百万トン増加（100.0%）し、12.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より0.7百万トン増加（11.9%）し、6.3百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の増加を受け、前年度より4.3百万トン増加（614.3%）し、5.0百万トンとなる見込みである。前年度の落ち込みから、2年度前の水準にまで改善している。

輸出量の大幅な増大があるものの、生産量も大幅に増加しているため、期末在庫量は前年度より0.7百万トン増加（106.6%）し、期末在庫率は前年度より1.7ポイント増加し、12.4%となる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、収穫面積が洪水の影響を受け下方修正されたものの、概して好天に恵まれていることから単収が上方修正され、生産量が1.5百万トン上方修正されている。また、これを受け、消費量が0.3百万トン、輸出量が0.5百万トン、期末在庫量が0.7百万トンそれぞれ上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

収穫は順調に進んでおり、8月4日の時点で80%の進捗率となっている。

ウクライナでは、7月23日～26日に発生した雷雨等により洪水が発生した。大麦に一部被害があったものの、さほど大きな影響はない模様である。

【貿易情報】

輸出量の枠が設定されていたが、2008年5月に撤廃された。

（世界の生産量シェア 1 位（2008/09年度42.7%）
輸出量シェア 3 位（2008/09年度18.6%））

表－5 EU-27の大麦需給（市場年度：7月～翌年6月）

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09			
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	56.2	57.8	62.7 (62.7)	1.9	8.5	
消費量	55.9	54.4	55.5 (57.6)	0.2	2.0	
うち飼料用	40.0	38.5	39.0 (42.1)	0.2	1.2	
輸出量	3.5	4.0	3.5 (4.6)	▲ 1.0	▲ 12.5	
輸入量	0.2	0.3	0.1 (0.3)	-	▲ 64.9	
期末在庫量	5.6	5.3	9.1 (5.9)	2.7	71.3	
期末在庫率	9.5%	9.1%	15.5% (9.5%)	4.7	6.3	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	13.8	13.8	14.5 (…)	0.26	4.7	
単収(t/ha)	4.06	4.18	4.33 (…)	0.06	3.6	

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、

「Grain: World Markets and Trade」、

「World Agricultural Production」

IGC 「Grain Market Report (31 July 2008)」より農林水産省試算

（世界の生産量シェア 3 位（2008/09年度 8.2%）
輸出量シェア 1 位（2008/09年度26.5%））

表－6 ウクライナの大麦需給（市場年度：7月～翌年6月）

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09			
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	11.4	6.0	12.0 (10.0)	1.5	100.0	
消費量	6.5	5.6	6.3 (…)	0.3	11.9	
うち飼料用	4.8	3.9	4.6 (…)	0.3	17.0	
輸出量	5.1	0.7	5.0 (3.5)	0.5	614.3	
輸入量	0.0	0.1	0.0 (…)	-	▲ 50.0	
期末在庫量	1.0	0.7	1.4 (…)	0.7	106.6	
期末在庫率	8.3%	10.7%	12.4% (…)	5.7	1.7	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	5.20	4.10	4.10 (…)	▲ 0.10	0.0	
単収(t/ha)	2.18	1.46	2.93 (…)	0.43	100.7	

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、

「Grain: World Markets and Trade」、

「World Agricultural Production」

IGC 「Grain Market Report (31 July 2008)」

カ ロシア

【需給状況】

ロシアの生産量は、前年度より2.3百万トン増加（15.0%）し、18.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、飼料用大麦の消費量が増えたことなどから、全体で前年度より0.6百万トン増加（3.9%）し、15.9百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の増加を受け、前年度より1.0百万トン増加（100.0%）し、2.1百万トンとなる見込みである。

期末在庫量は、生産量の増大が消費量、輸出量の増大分を上回ったことから、0.2百万トン増加（27.5%）し、期末在庫率は5.1%（0.7ポイント増）となる見込みである。

前月の予測からの改訂としては、単収の上方修正を受け、生産量が0.5百万トン上方修正された。さらに、輸出量が0.5百万トン上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

好天が続き大麦は順調に生育しているが、ウラル地方など一部地域では降水量が不足している。

【貿易情報】

2008年7月1日まで、輸出税が賦課されていた。

〔世界の生産量シェア 2位（2007/08年度12.3%）〕
〔輸出量シェア 4位（2008/09年度11.1%）〕

表－7 ロシアの大麦需給（市場年度：7月～翌年6月）

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09			
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	(単位:百万トン)
生産量	18.1	15.7	18.0 (18.0)	0.5	15.0	
消費量	16.4	15.3	15.9 (…)	-	3.9	
うち飼料用	11.8	10.7	11.3 (…)	-	5.6	
輸出量	1.5	1.1	2.1 (1.4)	0.5	100.0	
輸入量	0.2	0.2	0.2 (…)	-	0.0	
期末在庫量	1.2	0.7	0.9 (…)	-	27.5	
期末在庫率	6.8%	4.4%	5.1% (…)	▲ 0.1	0.7	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	10.00	9.80	9.60 (…)	-	▲ 2.0	
単収(t/ha)	1.81	1.60	1.88 (…)	0.06	17.5	

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」
IGC 「Grain Market Report (31 July 2008)」